第３節

幼稚園の親子登園・預かり保育・２歳児の受け入れ

園の子育て支援には第２節で紹介したもの以外に親子登園、預かり保育、２歳児の受け入れがある。預かり保育は経年でみても拡大しており、特にほとんどの私立幼稚園で実施されている。親子登園も３歳児で私立の約６割、国公立の約４割が実施していた。２歳児の受け入れは私立幼稚園で拡大しており、約４割の園が受け入れている。

第３節では、幼稚園で実施されている親子登園、預かり保育、２歳児の受け入れについてみていこう。親子登園は地域の保護者を対象とした子育て支援、預かり保育は在園児の保護者を対象とした子育て支援である。２歳児の受け入れは、子どものみを預かることを指している。学校教育法では、幼稚園に入園できるのは、満３歳児以上だが、実際は私立幼稚園を中心に２歳児を受け入れることが広がってきている。

■ 親子登園

幼稚園では、施設の一部を開放して地域の親子を受け入れるプログラムを実施している。子どもの対象年齢は０歳児から入園前の３歳児までである。本調査では、０～２歳と３歳児以降では、子どもの発達や親子の関わり方も違っているので、０～２歳児の親子登園と３歳児の親子登園を分けて実施率をたずねている（**図３－３－１、２**）。０～２歳児の親子登園は、私立 44.4％、国公立 23.5％が受け入れている。３歳児になるとさらに増加し、私立 60.7％、国公立 38.8％となっている（以下、国公立幼稚園は「国公立」、私立幼稚園は「私立」と表記）。

実施率の高い３歳児の親子登園について、さらに詳しくみてみよう。実施している国公立 177 園、私立 559 園での実施頻度を見てみると、どちらも月に１～３日がもっとも多く（国公立 48.6％、私立 41.7％）、実施日

図３－３－１　親子登園の受け入れ（幼稚園・０～２歳児）

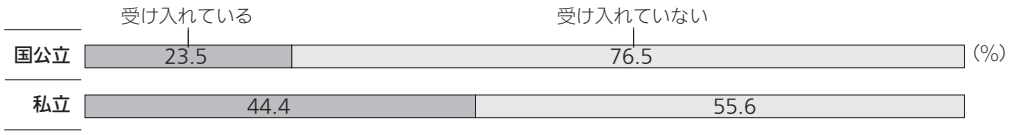
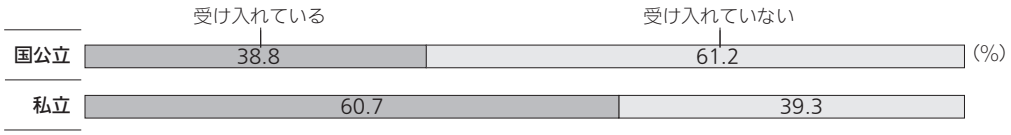


図３－３－２　親子登園の受け入れ（幼稚園・3歳児）



に来園する親子の平均組数は、国公立で14.1組、私立で19.2組だった（**図３－３－３、表３－３－１**）。

では、どのようなことを親子は体験しているのだろうか。実施内容について複数回答で聞いたところ、私立幼稚園と国公立幼稚園で違いがみられた(**図３－３－４**)。私立では、「親子で参加するプログラムがある」ところが多く（80.7％）、ずっと保育者がついている割合も多くなっている（63.9％）。国公立は「園庭、園舎を開放している」77.4％、「園の行事に参加する」58.8％、「園児の活動に参加する」42.4％となっていて、より園の活動に参加する機会を多くしているようである。

親子登園について、園は「活動内容の充実」48.5％（国公立、私立を合わせた全体の中での割合、以下同）、「保育者の確保」37.9％、「親子登園を行う場所の確保」35.1％などを課題としてとらえていた（図表省略）。

参加する親子にとって、親子登園は同年齢の子どもと出会い、保護者同士で交流する場となっている。また、３歳児の親子にとっては園の雰囲気を体験し、入園に向け、子どもと相性のいい園を選ぶ機会にもなっている。園の側からすると、地域の子育て支援のニーズに応えながら、保護者に将来の入園を検討してもらう機会となっている。保護者と園の双方にメリットがあるため、親子登園はさらに広がっていく可能性があるだろう。

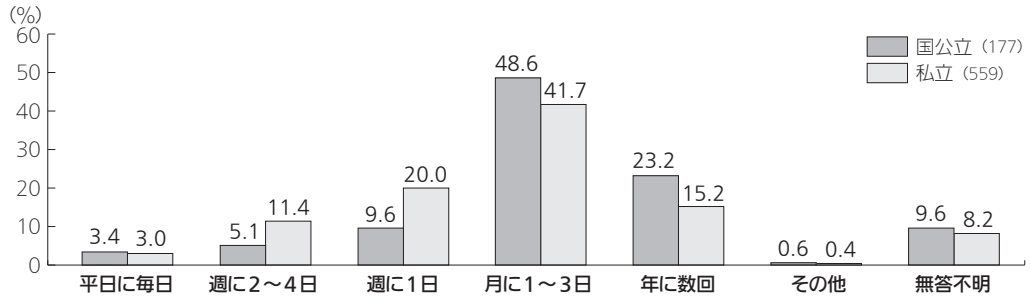
■ 預かり保育

幼稚園の在園児の保護者への子育て支援として始まった預かり保育は、私立で96.7％、国公立で59.4％の実施率となっていた。経年変化をみると、私立は6.4ポイント、国公立は12.1ポイント増加していた（**図３－３－５**）。私立はすでにほとんどの園で行われているが、国公立は実施する予定はないと回答した園が33.1％あった。

平日毎日実施している園は、私立で95.4％、国公立で71.2％に上ることもわかった（12年調査、図表省略）。本調査に回答した私立全体の中の92.2％で毎日預かり保育が行われていることになる。その意味では、預かり保育は私立の園で日常的に行われている子育て支援といってよいであろう。図表は省略するが、預り保育を行っている私立の61.1％で長期休業中も預かり保育が行われていた。

図３－３－６は預かり保育の終了時刻を示したものである。12年調査では国公立の50％は16時台で終了しているが、私立は6.5％にとどまっている。経年変化をみてみ

図３－３－３　３歳児の親子登園の受け入れ頻度（幼稚園）



注）（　　）内はサンプル数。

表３－３－１　親子登園 実施日の平均来園組数（幼稚園・3歳児）

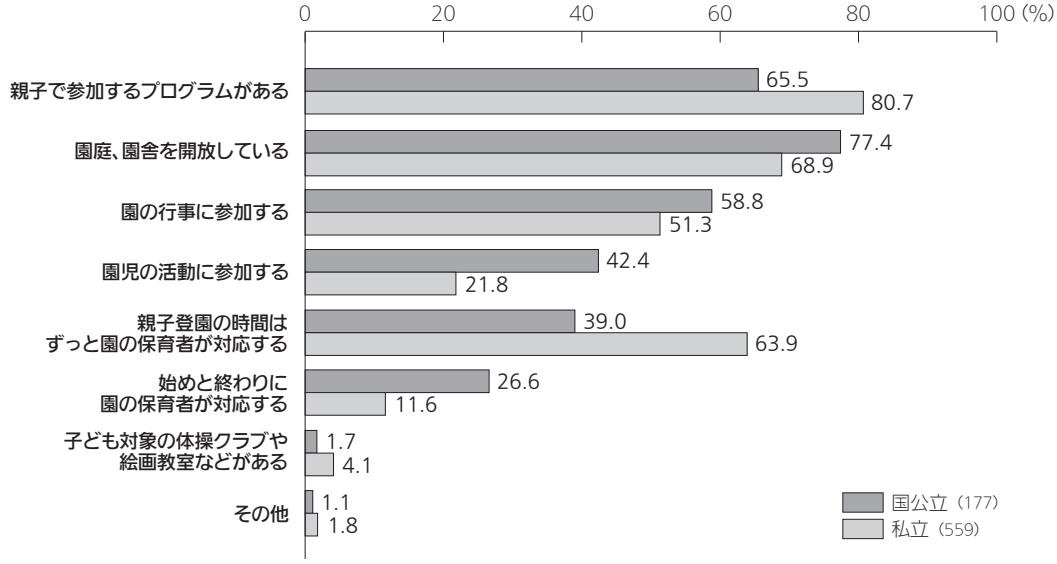
	平均来園組数
国公立	14.1
私立	19.2

注）図３－３－３、表３－３－１は３歳児の親子登園を受け入れている園のみを分析。

ると、私立の 18 時台以降に終了する園が 07 年調査では 26.4％だったのに対し、12 年調査では、59.6％に倍増している。国公立も 17.5％から 31.1％に増加していた。

私立の約 9 割の園で毎日実施され、その中の約 6 割が 18 時台以降に終了するとなる

図３－３－４　3歳児の親子登園の内容（幼稚園）



注１）複数回答。
注２）（　　）内はサンプル数。

図３－３－５　預かり保育の実施率（幼稚園・経年比較）

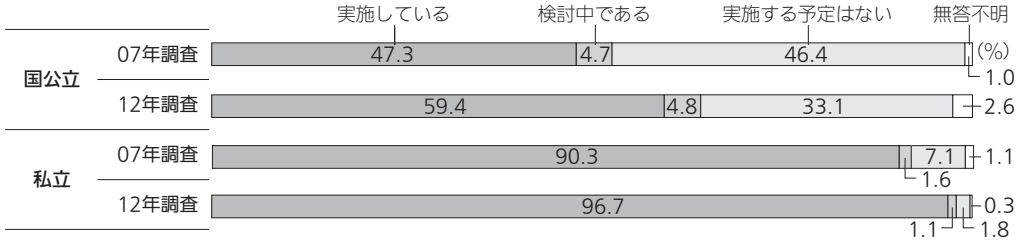
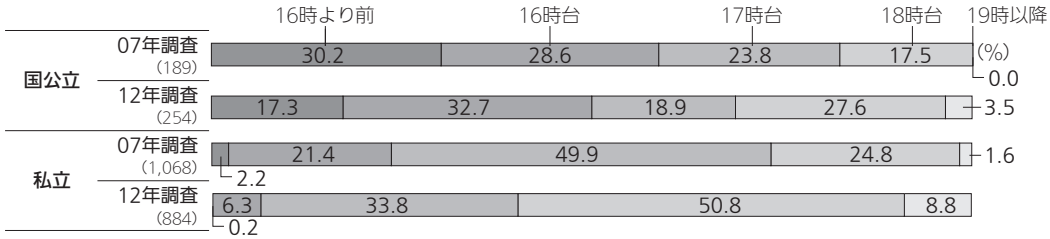
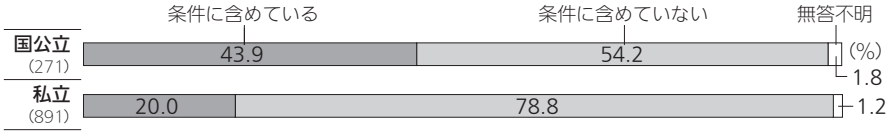


図３－３－６　預かり保育の終了時刻（幼稚園・経年比較）



注１）預かり保育を「実施している」と回答した園のみを分析。
注２）07 年調査は、「16：00 ～ 16：59」などからあてはまるものを選択、12 年調査は終了時刻を記入している。「16：00」は「16 時台」として分類。
注３）無答不明を除外して分析。
注４）（　　）内はサンプル数。

図３－３－７　保護者の就労を条件に含めているか（幼稚園・預かり保育の利用について）



注１）預かり保育を「実施している」と回答した園のみを分析。
注２）（　　）内はサンプル数。

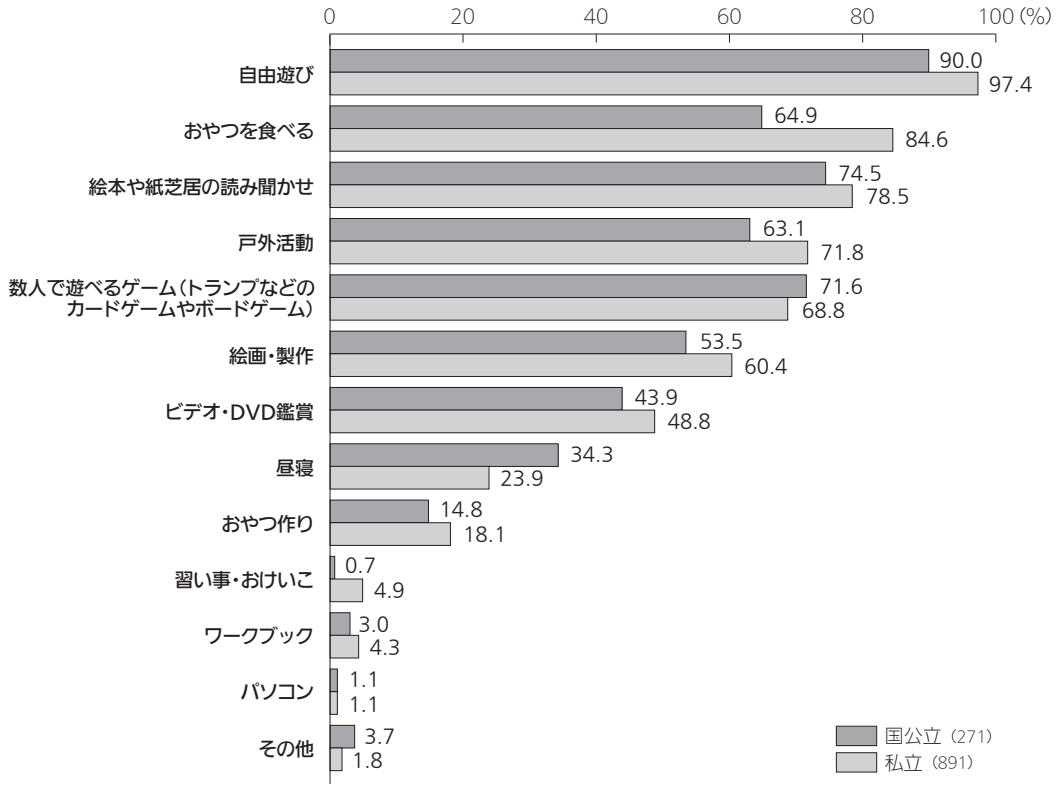
と、保育所の代わりに幼稚園の預かり保育を利用して、パートやアルバイトで働く保護者も出てきているものと思われる。預かり保育を利用するに当たって、利用条件に保護者の就労を含めているかどうかもたずねてみた（**図３－３－７**）。私立では 20.0％、国公立では 43.9％が利用条件に保護者の就労を含めていた。2013 年４月に待機児童がゼロとなった横浜市では、市が設けた相談窓口で勤務時間の短い就労を希望する保護者に幼稚園の預かり保育の利用を斡旋していたという事例もある。預かり保育が待機児童解消の一つの解決策として活用されている面もあると思われる。

預かり時間が長時間化していくとその時間を子どもたちがどのように過ごすのか、預かり保育の活動内容も課題となってくる。実際にどのような活動をしているのかをたずねたものが**図３－３－８**である。国公立、私立ともに「自由遊び」「おやつを食べる」「絵本や紙芝居の読み聞かせ」「戸外活動」「数人で遊べるゲーム」などが上位にあがっている。教育課程の時間のあとに行われる預かり保育には、指導計画のようなものはそぐわないと思われるが、家庭の中で自然に体験できることが味わえる環境作りが求められている。文部科学省は預かり保育の計画を立案することを推奨しているが、実際に活動内容について計画を作成しているのは、国公立 47.6％、私立 36.3％にとどまっている（**図３－３－９**）。

預かり保育の課題としては、国公立、私立でいずれも上位にあげられているのが「保育者の確保」「預かり保育を行う場所の確保」「保育内容の充実」などである。「運営費の確保」が私立のほうが国公立よりも多いのは、実施頻度が高いためであろうか。

幼稚園の子育て支援に欠かせない存在となっている預かり保育が今後の「子ども・子育て支援新制度」の中で、どのように位置づけられていくのか、議論の行方に注目したい。

図３－３－８　預かり保育の活動内容（実施している幼稚園）

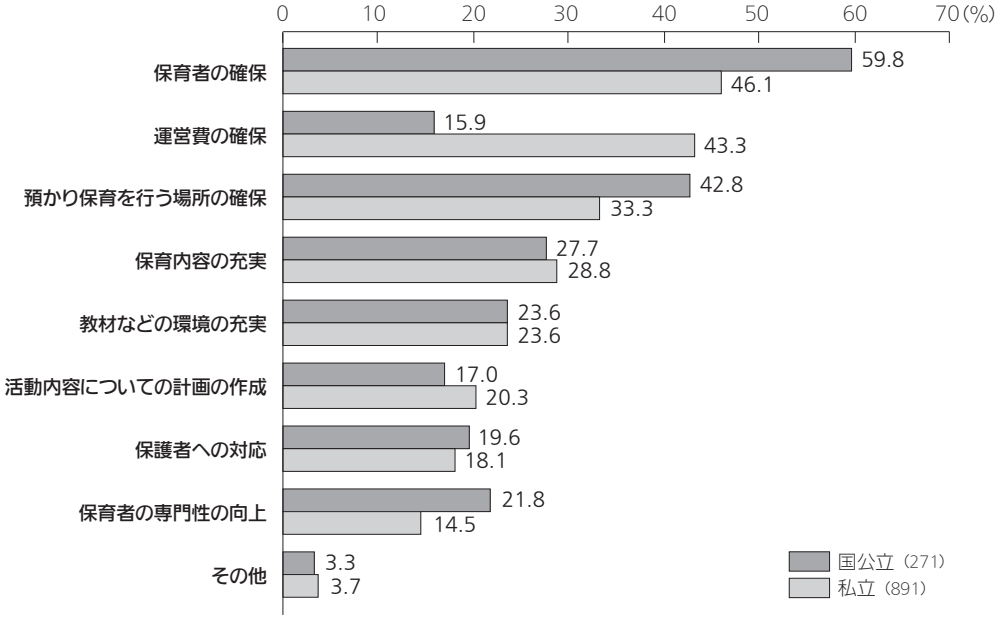


注１）預かり保育を「実施している」と回答した園のみを分析。
注２）複数回答。
注３）（　　）内はサンプル数。

図３－３－９　預かり保育の活動内容に関する計画の作成（実施している幼稚園）

注１）預かり保育を「実施している」と回答した園のみを分析。
注２）（　　）内はサンプル数。

図３－３－10　預かり保育の課題（実施している幼稚園）



注１）預かり保育を「実施している」と回答した園のみを分析。
注２）複数回答。
注３）（　　）内はサンプル数。

■ ２歳児の受け入れ

学校教育法により、幼稚園児としての入園が認められるのは、満３歳になった翌月からである。２歳児を園児として受け入れることはできないが、子育て支援の一環として２歳児を受け入れている事例がみられる。２歳児の受け入れについてたずねた結果をみてみよう。

図３－３－11 は２歳児の受け入れについて、国公立、私立の区分別に経年変化をみたものである。私立では 2012 年調査で受け入れている園が 39.7％あった。2007 年調査で 26.4％だったので、13.3％ポイント増加していることになる。国公立は 2012 年調査時点で、3.3％と、ほとんど受け入れていない状況である。

私立の２歳児の受け入れ頻度をみると、平日に毎日と回答した園が、２歳児を預かっている 366 園中 44.5％に上った（**図３－３－12**）。平日に毎日となると、ほとんど園児とみなしてもよい状態である。受け入れた２歳児はどのクラスに入るのだろうか。２歳児だけのクラスに入る子どもが 65.6％、次いで３歳児のクラス 12.8％となっていた。２歳児だけが入るクラスは本調査に回答した全私立幼稚園の 26.1％に設けられていることになり、約４分の１の園が２歳児のクラスをもっていることがわかった（**表３－３－２**）。

少子化が進む中、近隣に同年齢の子どもが少ないことや、親子だけで過ごす時間の煮詰まり感もあって２歳児の預かりが広がっているのだろうか。今後も２歳児の受け入れについて注目していきたい。

図３－３－11　２歳児の受け入れ（幼稚園・経年比較）

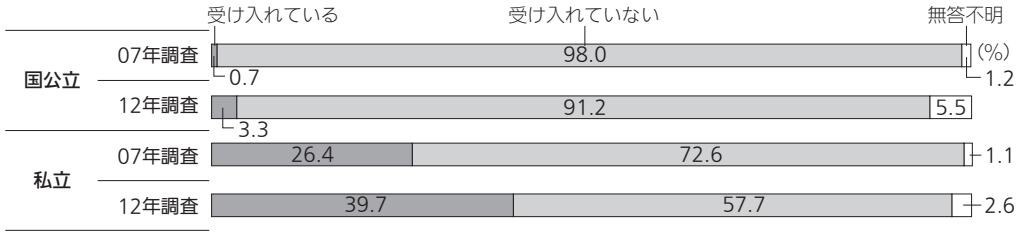
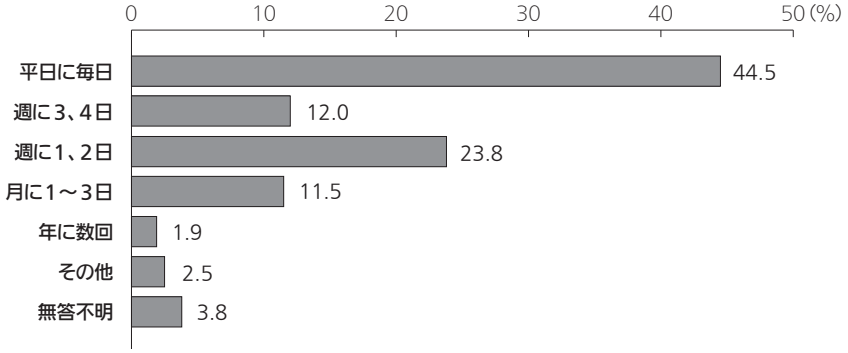


図３－３－12　２歳児の受け入れ頻度（私立幼稚園）



注）２歳児を受け入れている園のみを分析。

表３－３－２　２歳児が入るクラス（私立幼稚園）

クラスの区分	回答数	2歳児を受け入れている園（366園）に占める割合	本調査に回答した私立幼稚園（921園）に占める割合
２歳児だけのクラス	240	65.6%	26.1%
３歳児のクラス	47	12.8%	5.1%
その他	56	15.3%	6.1%
無答不明	23	6.3%	2.5%
合計	366	100%	39.7%

注）サンプル数は 366。